

家庭、地域どうすれば？ 久米准教授に聞く

新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた安倍晋三首相からの要請を受け、県内でもほぼ全ての小中高校が春休みまでの臨時休校となっている。突然の休校に加え、5日には県内初の感染者が確認され、子どもや保護者などの間でも困惑が広がっている。休校中はどうに過ごして、保護者はどのように子どもたちに接したら良いのか。公立小学校などで教員を30年以上務める。教育委員会での勤務経験もある、滋賀短大の久米央也准教授（算数教育・幼小連携教育）に尋ねた。

【聞き手・菅健吾】

新型コロナ臨時休校

— 休校期間中、保護者は子どもにどう接したらよいでしょうか。

◆ 保護者は聞き役に徹し、話を聞いてあげることが大切です。学校で学ぶというスタンダードな流れから逸脱して一人ないし二人で過ごすので、子どもたちにはストレスや不安がたまりやすい。楽しんで話すことを自分から発信してもらえればよいです。例えば、面白かった本の話を聞くなど、子どもの思い

— 子どもたちはどう過ごしてもらえばよいでしょうか。

◆ 宿題をたくさんさせるといった負担をかけるよりも、会話を多くし、できるだけ関わりを持つようにしてはどうでしょうか。「あれをきなさい。これをきなさい」といった指示をするよりも、自主性を大切にしてほしいと思います。

— 子どもに何を勉強するのか、自ら計画を立ててもらい、それができたら大いにほめる。一方、できなくてもなるべく怒らない。絵や漫画を描くことや、図鑑や本を読むことなど、子どもたちが個々が好きなことを自由に取り組める機会を与え、少しでもいいので「できた」という実感を持つ。

子どもと会話を安全と心のケア



インタビューに応じる滋賀短大の久米央也准教授—大津市竜が丘の滋賀短大で

くめ・ひでや 1960年生まれ。滋賀短大幼児教育保育学科准教授。専門は算数教育・幼小連携教育。83年から滋賀大付属小などの小学校で教員や教頭を務めたほか、教育委員会にも7年間勤務。教員や教育行政の担当者として34年間、子どもの教育の現場に携わった。2017年から現職。

— 教員にはどのような対応が求められますか。

◆ 教員も非常に大変な状況だと思いますが、子どもや保護者に電話や郵便物などでメッセージを伝えるなど、つながりを持ち、できたら声を聞かせてあげていただけると

— 休校期間中での対応など、教員の負担も増えています。

◆ 最前線にいる教員は、業務的にも精神的にも大変な状況に追い

込まれている中、やれることを頑張っています。行政と地域の皆さんが教員を見守り、支えてほしいと思います。校長や教頭など現場で指揮を執る管理職や教員を助けられるように行政は的確に出し、地域の子ども、民生委員なども協力し、分散できるのいでしよう。